

MBRとFDISKコマンド

1999/01/10 更新

2006/11/23 リダイレクトでここへ誘導

今となってはもはや知る人はなくなったDOSのそのDOSのコマンドであるFDISKもう使う人もオランダ路。でも何故かアクセスがある。のでこちらに移動。1999年当時、職場のJ.K様よりリクエストがありました。リクエストに答えて書いたのが元の文章です。

FDISK

職場のJ.K様よりリクエストがありました故、以下の文書を掲示します。はい。

はじめに

パソコン起動時に起動させたいを選択できるユーティリティが存在します。例えばWIN95、PC-DOS、Linuxを起動時に切り替えできる奴ですね。有名どころでは System Commander かな。

この手のユーティリティにはいくつかあり、ディスクの基本パーティションを1つ使うものと(マスタートレコード)を利用するものがあります。というか、私はその2種類しか知りません。

基本パーティションを使うもの

基本パーティションを使うものは、ユーティリティ自体が同じ様なイメージで起動されます。そして、そのユーティリティで実際に起動したいを指定して、そののインストールされているパーティションを使ってパソコンを再起動します。これでめでたく目的のが動いてくれます。

このタイプの欠点は、ユーティリティ自体に1パーティションを割り振らねばならないので、ユーザが利用可能な基本パーティションが3つになります。(つまりを複数インストールする場合、上限が3つとなるんですね。あ、あくまでも基本は、ですOS/2なんかだとちょっと違う)

また、起動時に参照されるパーティションをユーティリティのインストールされたパーティションに設定しておかないと、実行されなくなります。

を利用するもの

を利用するものは、ハードディスクの管理エリアに元々あった、標準ブートプログラムをそっくり入れ替えしてしまいます。そのため、基本パーティションはまるまるユーザで使用可能になります。またより先にの内容が読み込まれ実行されるので、かならずユーティリティが実行されます。

このタイプの欠点は、ウイルス対策プログラムや、ワクチンプログラムと非常に相性が悪い事です。なぜかといいますと、ウイルスの中にはに感染するものがあり、ウイルス対策プログラムは、の変化を常に監視しているからです。を入れ替えるという行為と、ウイルスがに感染する行為を、ウイルス対策プログラムは区別できません。きっとアラームを鳴らさっぱなしになるでしょう。

また、ユーティリティが破損すると、このディスクにあるを起動する事ができなくなります。(他の

ディスクから起動した`cmd`で参照する事はできます)

さて、やっと本題

`fdisk`に`active`セレクタをインストールしたものの、標準のものに戻したい、って事があります。そんな時には`fdisk /mbr`コマンドを使います。

`fdisk`コマンドはハードディスクのパーティションを切る時に利用するものですが、その他にもマニュアルには載っていない使い方がありす`fdisk`を起動ハードディスクに書き込む機能がそのうちの一つです。

例えばWindows95で起動ドライブに`fdisk`を書込みしてみたい場合`cmd`プロンプトを開いて、

```
FDISK /MBR
```

なんて実行してみよう。この時変にアンチウイルスソフトが動いていたりすると面白いものが見れる。(大丈夫、よほどの事が無ければシステムを壊す事はない)

さあ、挑戦を。

追記 `diskpart`

WindowsXPだと、すでに`FDISK`は見当たりません。...いや、たぶんパスが切れてないか、別の名前で存在しているのか。...これか？

[diskpart](#)

参考に[Fdisk および Format ツールを使ったハードディスクにおけるパーティションの作成/再作成方法](#)を読んでみると良いでしょう...もう使う気にはなれんわ (^ ^ ; ;

仮に`FDISK`を使えたとしても、昨今の容量がでかいディスク相手では使い物にならないと思われます。

[技術資料](#), [Windows](#), [PC](#)

From:

<https://wiki.hgotoh.jp/> - 努力したWiki

Permanent link:

<https://wiki.hgotoh.jp/documents/windows/old/old-002>

Last update: **2024/11/01 16:25**

